

令和4年9月16日

陸前高田市議会議長 福田 利喜 様

教育民生常任委員会委員長 及 川 修 一

令和4年度 管外行政視察報告

教育民生常任委員会の管外行政視察の概要を下記のとおり報告いたします。

記

- 1 期 間 令和4年7月21日（木）から
令和4年7月22日（金）まで

- 2 行政視察地及び研修項目
 - (1) 宮城県塩竈市（人口 52,720 人 R4.7.31 現在）
幼保小連携事業について
 - (2) 社会福祉法人クレッシェンド かえで保育園
かえで保育園において実施されている特色ある保育について
 - (3) 宮城学院女子大学附属認定こども園 森のこども園
森のこども園において実施されている特色ある幼児教育について

- 3 出席委員等 委員長 及 川 修 一 副委員長 大 坪 涼 子
委 員 畠 山 恵美子 委 員 蒲 生 哲
委 員 佐々木 一 義
随 行 局長補佐 山 口 透
書 記 吉 田 都

- 4 行政視察概要 別紙報告書のとおり

教育民生常任委員会行政視察報告

教育民生常任委員会は、宮城県塩釜市、大崎市及び仙台市において行政視察を行いました。

○宮城県塩釜市

「幼保小連携事業について」

【概要】

全国的に「小1ギャップ」が問題視される中、塩釜市教育委員会ではこの問題の解決に向け、特別支援教育の視点から幼保小連携事業の実践に取り組んでいる。

塩釜市の幼保小連携事業は、すべての子どもたちに「社会をたくましく生き抜く力」を育成することを目標とし、一人一人の発達・成長を支え、すべての子どもたちの良さや可能性を伸ばすことを取り組み方針に据えて事業を進めている。

この事業を推進するにあたり、教育委員会に幼保小連携事業の専門官を採用するとともに、幼保小連絡会議及び幼保小連携推進委員会を設置することで、幼稚園、保育所（園）と小学校との連携を積極的に進め、就学前の教育活動と小学校での教育活動を滑らかに接続させる実践に取り組んでいる。

【所感】

塩釜市の幼保小連携事業では、独自の「アプローチ・スタートカリキュラム」を導入しており、年間計画に沿って到達度の検証を定期的に行っている。また、市内の小学校、幼稚園、保育所（園）をつなぐパイプ役を担うスーパーバイザーが巡回訪問するとともに、幼稚園、保育所（園）と小学校との相互の授業参観を実施することで、入学予定児や卒園児の様子、発達状況を把握し、配慮を要する子どもについては保護者を含めた個別の相談に応じているとのことであった。

本市においても「保小スムーズコネクトプログラム」を実施しているが、このプログラムの詳細な年間計画の作成や到達状況の把握・検証が必要であり、課題の共有や発信が今後の課題として挙げられる。就学時に「生活の接続」と「学びの接続」が円滑にできるよう、幼稚園、保育所（園）と小学校との連携をさらに充実・強化していくことが求められると感じた視察であった。

○社会福祉法人クレッシェンド かえで保育園

「かえで保育園において実施されている特色ある保育について」

【概要】

かえで保育園では「言葉の力」を大切にしており、子どもの感受性に応える言葉、子どもの良さを伸ばす言葉、子どもに考えさせる言葉など、言葉で子どもを育てることを意識した保育に取り組んでいる。また、「集団の力」を大切に、子ども一人一人の発達や特性を理解しながらも、集団の持っている良さや集団だからこそできることなど、集団を重視した取組を行っている。

かえで保育園における保育の特徴として、子どもの自己決定権の保障とその育成に対する徹底した多様な支援がある。その手法として、アート教室、運動教室、英語教育、食育、キッズニア、プログラミング学習などを採用している。

【所感】

かえで保育園のプログラミング学習「メイプロ」の導入効果を伺ったところ、論理的思考が身に付いたこと、子ども同士の議論が生まれていること、新たな発見の喜びを子どもが経験を通して実感していることによって、自ら主体的に考える子どもに成長しているとのことであった。

本市においてはプログラミング学習の重要性がいまだに認知されていないこと、また、その導入における手法と人材の欠如が課題として挙げられる。プログラミングはグローバル社会で生き残る仕事に就くために必須のスキルであり、初等教育においても重要視すべきだと感じた。

かえで保育園では、「子どもたちに向き合う時間」を大切に、事務作業などを効率化するため、ICTを活用した保育システムを導入している。欠席・遅刻の連絡をメールで通知できるほか、退出管理や体調管理などもクラウド上で管理を行っており、災害時の緊急連絡も一斉にお知らせすることができるなど、ICTによる運用が効率的に行われていた。園と保護者との連絡がスムーズに取れること、ウェブ見学など園外においても保育の様子が確認できることは、業務の効率化だけでなく円の運営にも大いに生かされていると感じた。

また、職員が健康かつ快適に働くための様々な仕組みや環境が整っていることも、心身ともに健康で子どもたちと向き合い、モチベーションが高く仕事に取り組むことにつながっていると感じた。

本市においても、保育所や保育園は単に子どもを預かって保育するという概念から、変化の激しい時代や社会にあって、どのような子どもを育てたいか、明確なビジョンとそのための手法を検討する必要があると感じた視察であった。

○宮城学院女子大学付属認定こども園 森のこども園

「森のこども園において実施されている特色ある幼児教育について」

【概要】

森のこども園は、自然体験活動を基軸とした幼児教育・保育を一元的に提供する保育環境やカリキュラムの実践方法を全国で初めて体系化した認定こども園である。

聖書の教えに基づいた人間教育を理念とし、野外遊びを通して、「不思議に思う心」「感動する心」「思いやりの心」の「3つの心」を育てている。豊かな自然環境と優れた空間の下で、幼児の心身の健全な成長を促し、のびのびとした豊かな個性と、調和のとれた人格形成の基礎を培うことを目的とした幼児教育を展開している。

また、幼児教育研究施設として、大学と協力し保育の研究を行っているとともに、子育て支援拠点事業の実施により、地域社会における幼児教育の発展に貢献している。

【所感】

森のこども園では、園庭に固定遊具を置かず、敷地内及び隣接する森を活用した遊びや食育活動に力を入れている。このようなアウトドア教育の実践の中で、子どもが自然の中で生き生きと学び育つことが人間形成において大切であることを確信したとのことであった。

また、地域の子育て支援にも取り組み、「子育て支援室」として、0歳児～2歳児の親子遊び、子育て講座、子育て相談などの子育て支援事業、未就園児の一時預かり事業、小学生のための放課後児童クラブ「森の家」を展開している。森のこども園の地域子育て支援拠点事業は、「地域機能強化型」に位置付けられ、専門性の高い支援が行われている。現代社会において増加している発達障害への対処や、子育ての悩みを共有できる保護者間の交流の場として、家庭と地域を結びつける存在となっていることを知った。

今、教育・保育において、「生きる力」「豊かな人間性と創造性」を育むことが求められている。今後の未来を創り担っていく子どもの育成を考えた場合、本市においても特色ある幼児教育の推進は不可避であり、本市の自然の豊かさを最大限に活用した

カリキュラムの導入は必須であると考える。

現在、本市には、市立の保育所と法人立の保育園の二つの選択肢があるが、各保育施設が独自の特色ある保育、あるいは、幼児教育を展開することによって、子どもと保護者にとって望ましい保育施設として進化していけるよう、適度な施設間の競争を生み出せるような政策誘導、インセンティブが必要だと考える。このことは、本常任委員会から市当局へ強く提言すべきであると感じた視察であった。